

第1学年 算数

第1学年の学習到達目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。
- (4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。

第1学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	1 なかまづくりとかず	●10までの数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようになる。	○0～10までの数の読み方、書き方 ○数字と具体物や半具体物との対応 ○0～10の数の大小、順序、系列
	2 なんばんめ	●数を用いてもものの順序を正しく表すことができる。	○順序や位置を10までの数を用いて表すこと ○順序数と集合数の関係
	3 いくつといくつ	●10までの数の構成を理解し、数を多面的にみることができる。	○5～10の数構成、分解
	4 あわせていくつ ふえるといくつ	●加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるとともに、それを用いることができる。	○加法の意味（合併・増加）の理解 ○加法の関係を式に表す ○和が10以下の加法の計算 ○たし算カード作り ○0の入ったたし算の計算
	5 のこりはいくつ ちがいはいくつ	●減法の意味と被減数が10以内の減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるとともに、それを用いることができる。	○減法の意味（求残・求差）の理解 ○減法の関係を式に表す ○10以下の数についての減法の計算 ○ひき算カード作り ○0の入ったひき算の計算
	6 10よりおおきいかず	●20までの数について、個数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができる。	○10より大きく20未満の数の書き表し方と読み方
	7 なんじ なんじはん	●時刻に関心を持ち、時計から何時、何時半の時刻が読め、日常生活を生かすことができる。	○時間と30分の理解
	8 はなはなんこ さいたかな	●ものの個数を絵や図などを用いて表したり、読み取ったりすることができる。	○加法の意味（合併・増加）の理解 ○加法の関係を式に表す
	9 どちらがながい	●長さの比較などの活動を通して、長さや測定についての理解の基礎となる経験や、長さについての感覚が豊かになる。	○長さの直接比較、間接比較 ○個別単位を用いての長さの表し方、比べ方
	10 3つのかずのけいさん	●3つの数の加減計算の仕方を考え理解し、確実にでき、それらを用いることができる。	○3口の数の加減計算
	11 どちらがおおい	●体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての理解の基礎となる経験や、体積についての感覚が豊かになる。	○体積の比較、測定の仕方
	12 たしざん	●1位どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にでき、それを用いることができる。	○(1位数)+(1位数)でくり上がりのある計算 ○くり上がりのある加法の適用問題 ○計算カードを使った計算の練習
後期	13 かたちあそび	●身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形についての理解の基礎となる経験や感覚が豊かになる。	○立体図形の形に着目した仲間わけ ○立体図形の特徴や性質の理解 ○集めた箱を使っての作品作り ○いろいろな形を写して、紙を切り取ったり、絵をかいたりする
	14 ひきざん	●11～18から1位数をひく栗下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにする。	○(十何)-(1位数)でくり下がりのある計算 ○くり下がりのある減法の適用問題 ○計算カードを使った計算の練習

15 どちらがひろい	●面積の比較などの活動を通して、面積の概念や測定についての理解の基礎となる経験や面積についての感覚が豊かになる。	○面積の比較、測定の仕方
16 20よりおおいかず	●2位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができる。	○100までの数の唱え方、数え方、数字の読み方、書き方 ○2位数の構成 ○100までの数の系列、順序、大小
17 なんじなんぷん	●時刻に関心を持ち、時計から何時何分の時刻が読め、日常生活に生かす。	○時刻の理解
18 ずをつかつかんがえよう	●順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面についても加減計算が適用できることを理解し、それを用いることができる。	○加法か減法かの演算決定
19 かたちづくり	●身の回りにあるものの形を観察したりするなどの活動を通して、平面図形について理解の基礎となる経験や感覚が豊かになる。	○平面図形の形に着目した仲間わけ ○平面図形の特徴や性質の理解
20 1ねんのまとめ	●1年で学習したことに進んで取り組み、学習のまとめをしようとする。 ●既習の数の構成や計算、測定のしかたを理解し、適切にできるようにする。	○大きな数の数え方、数構成、系列 ○長さくらべ ○加減計算

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点</p> <p>【算数への関心・意欲・態度】 算数科的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする。</p> <p>【数学的な考え方】 日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりする。</p> <p>【数量や図形についての技能】 数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。</p> <p>【数量や図形についての知識・理解】 数量や図形について豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>① 多面的な評価 ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発言、課題への取り組みの状況、ノートの整理の仕方、自己評価、相互評価、毎時間の伸び、疑問、願いなど様々な面から評価します。</p> <p>② 自己評価の重視 学習の仕方や理解の程度など、自己評価も参考にします。</p>
---	--

特色ある学習方法

<p>(1) 授業では、児童の思考の援助として具体物やプリント等を用意して展開します。</p> <p>(2) すぐろくや計算ゲーム等を行い、楽しみながら学習します。</p>
--

使用教材等

<p>○ 教科書「あたらしい さんすう」(東京書籍)</p> <p>○ ドリル</p>

留意事項

<p>(1) ノートの種類 最初は10マスのノートを使い、日常の学習、まとめなどに使います。</p> <p>(2) 家庭での学習にご協力をお願いします。 たし算、ひき算カードの計算がすらすらできることは理解につながります。機会があるごとに聞いてあげてください。毎時間の復習は確かな学力につながります。ドリル、学習プリントなど、ご家庭でも見てあげてください。そして、家族団らんの時間にお子さまの伸びを話し合うなどして努力を認めてあげてください。</p> <p>(3) 学習したことが実際の生活でも生かされるよう、家庭でもご協力をお願いします。 数字がいろいろなところで使われているのを見付けることは、1年生の学習の基礎になります。「新聞や広告」「身の回り」などのたくさん数字見付けをして「どんな意味を持つ数字なのか」ご家庭でも話し合ってみてください。算数の「よさ」がはっきり分かるのは、算数が実際の生活の中で有効に使えることを知った時です。そうすると、子どもたちは、積極的に算数を生活の中で生かしていこうと考えます。家庭での学習にご協力をお願いします。</p>
